放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：2024 年 3 月 11 日　　事業所名　淡路こども園

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○			
	2	職員の配置数は適切である	○			配置数は満たしているが、個別対応が必要なケースもあるので、子どもたちを見る体制は常に見直していきたい。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている		○	古い施設の為、バリアフリーは対応しきれていない。階段や廊下に手摺が設置されているが、段差のある所などは利用者がケガをしないよう気をつけている。	車イスの方は1F→2Fへ上がれない等バリアフリーに対応できていない。今後、建て替えの時はバリアフリーを実現したい。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	○			業務改善のため、職員全体で取り組み、職員のモチベーションの向上を目指したい。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		年度末に評価表をもとに職員全体で共有して、よりよい支援に活かしている。	評価表は毎年、職員全体で確認し、すぐにできるところから改善に取り組んでいる。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		年1回、ホームページで公表している	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		これまでは第三者評価を行ってこなかったが、実施する必要性を感じているので前向きに考えている。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		研修委員が中心となって、年間の研修計画を立て、虐待や感染症、ケガの対応等も含め研修をほぼ毎月行っている。	年間を通して研修計画を立て、内部研修、外部研修とも積極的に参加を勧めている。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		アセスメントを行い、保護者のニーズや意向をふまえて、計画を立てている。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		対人関係、コミュニケーションに特化したものであるが、5領域についてもアセスメント対応している。	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		プログラムについては定期的に検討し立案している。	プログラムは子どもの意見も聞いて積極的に取り入れていきたい。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		季節ごとの行事を大切に、施設外や地域の行事に参加する等、工夫している。	その都度、実施した内容について振り返り、工夫や改善につなげたい。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		活動プログラムは、春・夏・冬休みに応じた内容やこどもの希望、主体性を尊重して、支援している。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成している	○		子どもの状況に合わせて個別や集団の活動を入れて計画を作成している。	子どもの状態や子どもの意思や意見も確認しながら、個別活動や小集団グループでの活動を考えて実施していきたい。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		時間は短くても打合せをしたり、打ち合わせに出れない人には書面等で活動内容や利用者の状況を確認するようにしている。	なるべく打合わは前日に、その時の状況によっては当日になることもあるが、打合せをするよう徹底したい。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		支援終了後に利用者の様子で気づいた点や気になったことは必ず職員で共有するようにしている。	打合せや振り返りを行い、情報共有と次への改善点や工夫につなげたい。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		子どもの具体的な様子や、やりとりを含めて記録を書くようにしている。	記録は毎日つけるようにし、振り返って子どもの状況をつかめるようにしたい。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		子どもの状態や家庭の状況もふまえ、見直しが必要かどうか、確認をしている。	子どもの状況に合わせてモニタリングの回数や計画の見直しを判断していきたい。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせて支援を行っている	○		活動を組み合わせたり、複数の活動を用意するようにしている。	

関係機関や保護者との連携	20	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		子どもに関わり、状況をよく知っている職員が参加している。	
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	○		学校と連絡をとり利用者の状況を確認している。学校へ迎えに行く際、学校の先生に本人の様子を聞いている。	情報共有については保護者とすることが多いが、適宜学校とも直接,子どもの状態について確認しているが十分ではないので、学校とも連絡、連携を取れるようにしたい。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	○		てんかん発作が起こった時の対応については研修を行い、看護師に助言をもらっている。	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○		引継ぎを丁寧に行っている。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障がい福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○		相談支援専門員も入って丁寧に引き継ぎ、情報提供している。	本人も保護者も安心できるように丁寧に引継ぎしていきたい。
	25	児童発達支援センターや発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○			
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○	交流は行えていないが、地域のお祭りやイベントに参加している。	子どもの状況を見ながら交流するメンバーを検討して実施したい。
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している	○		体制が取れれば若い職員も参加するようにしている。	自立支援協議会こども部会の部会長として運営に携わっている。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		親子通園の為、日頃から直接、保護者と子どもの話をしたり、確認する機会が多い。	全ての保護者と共通理解が持てるよう努力したい。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント･トレーニング等の支援を行っている	○		親子通園では保護者のニーズも確認しつつ、いろんな勉強会、講演会を行い、気づきや対応力の向上を図っている。	ペアレントトレーニングのファシリデータの研修を受けたが、保護者の対応力の向上を図るための1つの方法として取り組みたい。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		個別相談、グループ相談、カウンセリング等、日頃から保護者の話を聞いたり、保護者の方からも相談しやすい関係づくりを心がけている。	なるべく保護者の話や相談には、きめ細やかに対応し、必要な支援を行ったり、サービスにつなげていきたい。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		保護者会はないが、月2回保護者が集まる日があり交流している。	幼児期～成人期までの保護者同士が話をしたり、交流できる機会を作っていきたい。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		苦情や要望など、なるべ迅速かつ丁寧に対応するよう、心がけている。	苦情については職員に周知し、適切に対応するよう努めたい。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		毎月、園だよりを出して活動の予定や子どもの様子、お知らせ等の情報発信をしている。	よりわかりやすく、興味を持ってもらえるような内容にしていきたい。
	35	個人情報に十分注意している	○			
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		わかりやすい、見やすい文字、絵などを用いる等、視覚的な支援も取り入れたり、理解していただけているか、確認するようにしている。	外国人の保護者とのやりとりに、言葉だけでは不十分なので、スマホの機能やタブレット等を使う等、工夫していきたい。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		コロナ渦で実施できなかったが、地域の人にも施設を開放して、おまつりを実施した。	感染症の流行等、状況を見ながらではあるが、地域にも施設を開放してのお祭りを再開する方向で検討したい。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○			毎年1回はマニュアルをもとに保護者と内容について確認して周知していきたい。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		いろんな災害を想定して訓練している。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		年間に複数回、職員全体で研修をしている。外部の研修にも参加している。	職員全体で研修を重ねる中で意識を高めると共に人材育成に力を入れていきたい。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○		車イスやヘッドギアの使用については、保護者の同意書をもらい、実施した場合は適切に記録を取っている。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○			
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		小さなケガやヒヤリハットについても必ず記録し、対策を講じるよう心がけている。	ヒヤリハットについては事例を職員全員で共有して事故防止に努めたい。